



ま あ、正月
ですから。

歳末風景

本 稿を書いているの
が大晦日の朝なのだけ
れども、Eテレでは地球ド
ラマチックで猿、おさるのジ
ョージで猿、生き物なりきり
番組で猿と怒涛の猿ラッシュ
があった。考えてみれば申年
でしたよね。今更思い出した
ように何かしらすというのが
年末の特性でしょーか。

暑 中見舞いにも干支を書こ
う、みたいなのは最近ほ
流行らなくなつたわね。元か

ら流行ってないけど。そもそ
も暑中見舞いこそバレンタイ
デー並に郵便局の商売
上の戦略だったと思
うのですが、昔の人
もそんなに好き好
んで暑中見舞いを
出してたろうか
ね、というところ
うでも無い気が
する。むしろ、
お中元のお
札にやか
もめーる
使いま
さあな
暑いか
ら先方
の無事
を尋ねる、
というのも
昔からの事
情にせよあん
まり流行らな
かつたんじゃない
中廊下。

で、皆さんの代わりに調べ
ましたよ、ネットで。そ
したらあーた、検索結果の上
の方に出てきたサイトがみん
な同じテキストというなんだ
か修羅場の様相を呈しており
まして、しかもこれといった
ことは書いていない。明治6
年に郵便が始まったから年賀

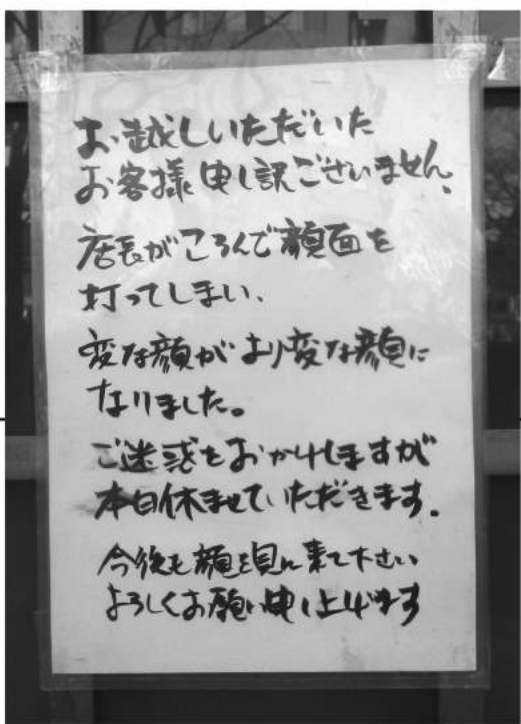
状が流行り、大正になつてか
ら暑中見舞いも流行り始めた
とある。以上。

そこからしても、冬のみな
らず夏もはがきを売った
郵便局さんサイドと、手習
いやらカルチャースクールで
書写絵画技術を身につけたも
の、お金を払った分どこか
で活躍の場が与えられた市
井の人さんサイドの思惑が一
致した感じなんでしょうな。
ほんとうに必要ななら自分でそ
の人のところに向いていく
し、少なくとも東京の噺家さ
んはいまだにお歳暮もお中元
も自分の足で各師匠方とこ
ろに届けに行くしね。

人間の「何かはしたい。で
いても、面倒なのはいやずら
という姿勢は案外といういろ
んな産業を生むものであるなあ、
という結論を見出しつつ、大
晦日に暑中見舞いの話題をす
る辺りが「アタリ」なのだど
読者の皆さんも心得ておくと、
特に何もありません。

そろろ行数が尽きてきた
ので平成廿九年の展望を
もの申せると読み物業界とし
てはまっつーなんです、正
直特になにもない。(本稿を書
いている)今年だってフワッ
とした印象さえない。その辺
の「特に感想はない」という
辺りが世相を表していると言
えば云えるのかもしれない。
(本号が出る)今年もそうし
てフワッとまた終わっていく
のかもよ。新年早々これか！

街のシヨドー



近所の食堂より。自虐とウイットに加え、「顔を見に来て下さい」で締めるところに並ならぬセンスを感じる。字も趣深い

バックナンバーはこちら
弊紙「ペラ式アタリ」のバツ
クナンバーはウェブサイトを
<http://shew.web.fc2.com/atari/>
からご覧いただけます。

おしらせ

『高校演劇のつくりかた』日
本大学第二高校の場合―』発売
中です。



新書版256ページ・1080円
V2ソリューション刊
Amazonでお求めください

今号本文で出た「『心中』
論」の載っているながしろうの文
芸評論集『文藝三行半』は弊社
より発売中です。文庫版64ペー
ジ700円。詳細お問い合わせくだ
さい。

文藝三行半

弊社でチラシを作成した林家
ひろ木さんの真打披露興行(3
〜5月)、いよいよ近づいてき
ました。これを機に演芸場に足
をお運びください。

